

	埼玉大学 社会科学分野
学部等の教育研究組織の名称	経済学部（第1年次：280名 第3年次：10名） 【夜間主】第1年次：50名 経済科学研究科（M：30名 D：9名）
沿革	大正10（1921）年 浦和高等学校 設置 昭和24（1949）年 埼玉大学 文理学部 設置 昭和40（1965）年 文理学部を改組し、経済学部を設置 平成5（1993）年 経済科学研究科 設置
設置目的等	昭和24（1949）年に、リベラルアーツを担当するとともに文系・理系・社会系の専門教育を行うことを目的に、文理学部が設置された。 昭和40（1965）年に、経済学、経営学、法学をはじめとする社会科学の教育及び研究を通じ、自ら問題を発見し、分析し、解決することができる人材の養成を目的として、経済学部が設置された。 平成5（1993）年に、ビジネス及び地域社会においてリーダーシップを発揮しうる、研究者的能力をもった高度専門職業人を育成し、その成果を社会に還元することを目的として、経済科学研究科修士課程が設置された。
強みや特色、社会的な役割	【総論】 埼玉大学における社会科学分野においては、真理の探究を図るとともに、地域における課題解決の役割を果たすべく、教育研究を実施してきた。 引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強み・特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。  【教育】 (学部) ○ 経済学・経営学等の学問分野の教育研究を通じて、自ら問題を発見し、分析し、解決する能力を有し、広く社会で活躍できる人材を養成する。 ○ このため、経済学、経営学等の学問分野と社会保障・都市・環境などの学際分野を含む社会科学教育及び演習・卒業研究を中心とした少人数教育に取り組んでいる。 ○ 今後は、卒業時に必要とされる資質や能力を可視化しつつ、体系的な教育課程（メジャー・マイナー制度）を編成するとともに、学生の能動的学習を促す教育の実施や組織的な教育体制、「国際プログラム枠」で入学した学生を中心とした、社会科学系の知識に基づくグローバル人材育

成等を通じ、学部における当該分野の強み・特色を明確にする。

(大学院)

- 働きながら修士号、博士号を取得する社会人の高度な学び直しの場合として、企業、組織、社会が直面している諸課題について自立的な調査研究を遂行し、アカデミックな理論と接合して、自ら政策提言を行いうる能力を有する高度専門職業人、博士号を持つ社会人の研究者を養成する。
- このため、全ての講義を夜間及び土曜日に開講することや東京駅前のサテライト教室の開設等により利便性の向上に努めている。
- 全学の機能強化の観点から、現行の2つの人文系・社会科学系研究科の在り方や教育課程を見直すとともに、博士前期課程でのダブルディグリー制度によるグローバルリーダーの育成を進め、課程制大学院の趣旨に沿った教育課程と指導体制を一層充実・強化する。

【研究】

- 社会科学分野における研究実績をいかし、アジアの経済と生活やマクロマーケティング研究等に重点的に取り組み、研究のグローバル化を進める。これらの取組により、総合的な研究を組織的に推進するとともに、我が国社会の課題解決・文化の発展に貢献することを目指す。
- 今後、テニユアトラック教員の採用等により研究力の強化を図り、経済学・経営学分野などの重要な学問分野を発展させる。

【その他】

- 学生の留学及び留学生の受入れ等の支援や、国際的に高い研究水準を誇るチュラーロンコーン大学(タイ)との連携やネットワークの強化等、教育研究の国際化を推進する。
- 全学的な機能強化を図る観点から、18歳人口の動態や社会ニーズを踏まえつつ、学部・大学院の教育課程及び組織のあり方、規模等を見直しに取り組む。
- 学部の入学辞退率の改善のため、入試制度・入試方法の見直し等に取り組む。